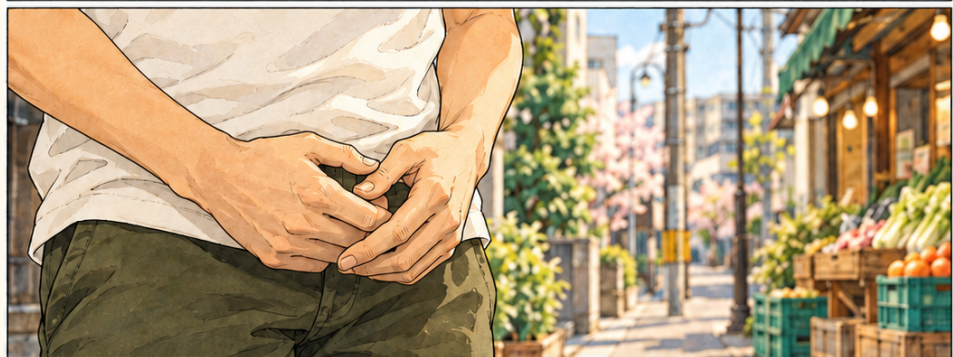


自分の店を持ちたい。



26歳になる頃。自分の店を持ちたいと思っていた。



「とにかく、起業がしたい。」



何をするかは、まだ探している途中だった。

いろんな仕事の、その先に。



海外へ一人旅。いろんな経験をした。



車屋、介護、不動産。さまざまな現場で働いた。



その中で母親の紹介で八百屋に出会った。

八百屋って、面白い。



八百屋でアルバイトをするようになった。



目の前に並ぶ、野菜や果物。



「この事業、面白いな。」

店に立つ日々。



店に立ち、お客様を迎える。



働きながら、お客様との距離が近く楽しさを覚えた。



八百屋で独立したい。そう思うようになった。

きっかけは、ひとつの声。



アルバイト先のお客様に、飲食店を営む方がいた。

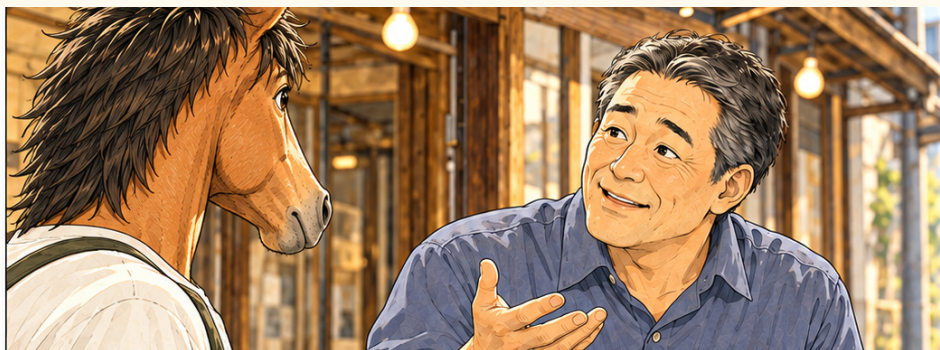


その方が、独立につながる声をかけてくれた。



「その隣が空いているから——」

よかったら、八百屋を。



「よかったら、八百屋を出さないか。」



自分の店を持つことが、急に身近になった。



その声が、独立への一歩になった。

よし、ここでチャレンジしよう！



右も左もわからない。それでも、やってみようと思った。



よし、ここでチャレンジしよう！



八百屋を、自分の仕事にすると決めた。

開店へ向けて。



自分の店を始めるため、準備を進めた。



野菜と果物を、お客様へ届ける店。



考えていたことを、一つずつ形にしていく。

看板を掲げる日。



店の名前は「噂の八百屋」。



いい噂が広がる八百屋にする！



2009年4月。26歳で、店を開いた。

噂の八百屋はこうしてスタートした。



八百屋で独立すると決めてから、すべてが動き出した。



自分が周りに発信することで、応援してくれる人が増えた。



噂の八百屋はこうしてスタートした。